

## 【歯科大学・歯学部の存在と歯科医師数・歯科診療所数】

全国には 18 都道府県に 29 の歯科大学・歯学部があります。

この歯科大学・歯学部の存在が、地元都道府県の歯科医師数・歯科診療数にどのような影響を与えているのでしょうか。データを使ってみたいと思います。

まずは各都道府県の歯科医師数からみていきます。

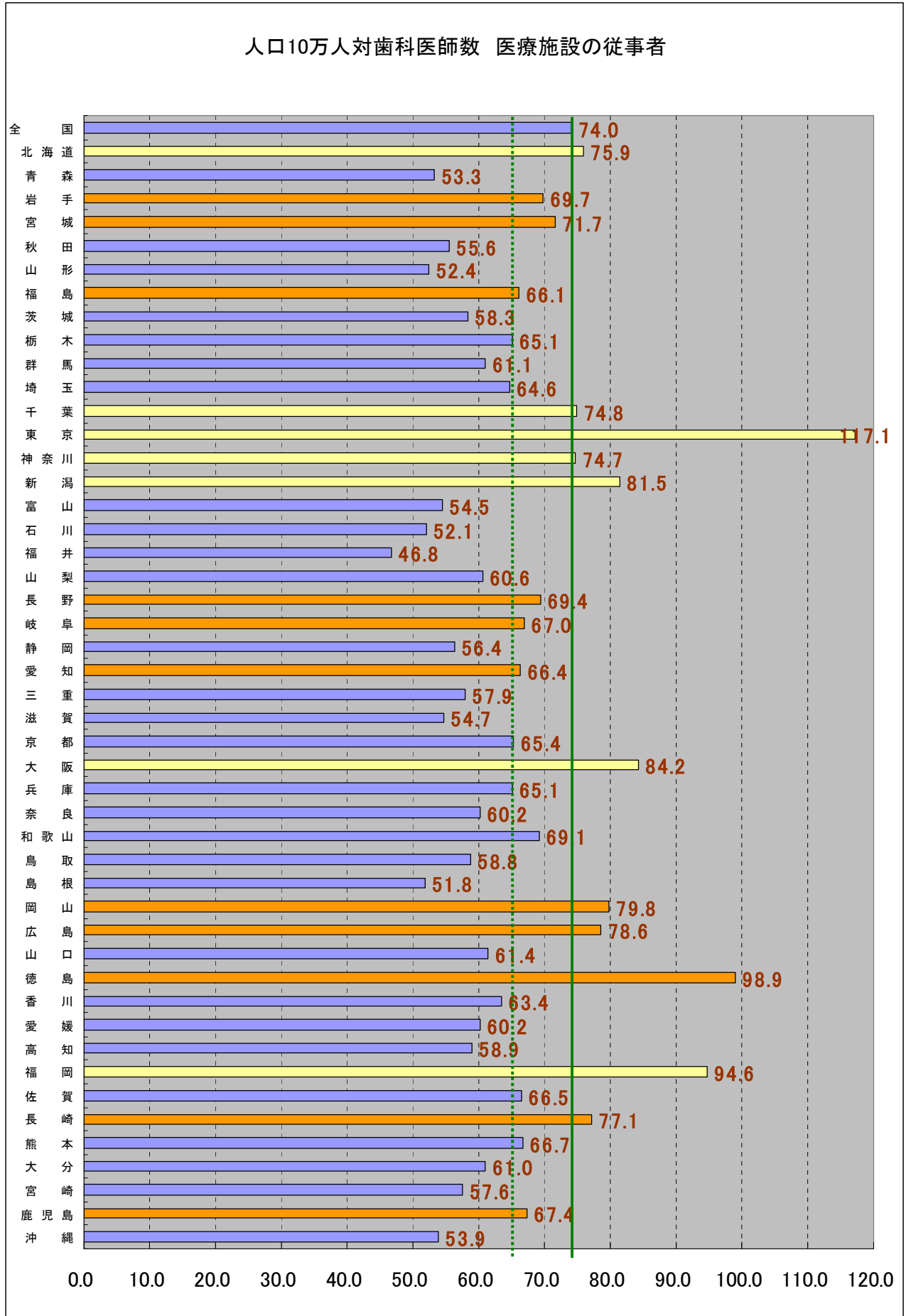
次の表は、平成 18(2006)年 12 月 31 日現在の各都道府県の人口 10 万人対の医療施設に従事する歯科医師数を示しています。

オレンジで塗りつぶした都道府県には一つの歯科大学・歯学部が存在しています。黄色で塗りつぶした都道府県には複数の歯科大学・歯学部が存在しています。(降順に並べています。)

歯科大学・歯学部のある都道府県には、歯科医師が多いことは歴然としています。

		人
東	京	117.1
徳	島	98.9
福	岡	94.6
大	阪	84.2
新	潟	81.5
岡	山	79.8
広	島	78.6
長	崎	77.1
北	海	75.9
千	葉	74.8
神	奈	74.7
全国平均		74.0
宮	城	71.7
岩	手	69.7
長	野	69.4
和	歌	69.1
鹿	児	67.4
岐	阜	67.0
熊	本	66.7
佐	賀	66.5
愛	知	66.4
福	島	66.1
京	都	65.4
栃	木	65.1
兵	庫	65.1
埼	玉	64.6
香	川	63.4
山	口	61.4
群	馬	61.1
大	分	61.0
山	梨	60.6
奈	良	60.2
愛	媛	60.2
高	知	58.9
鳥	取	58.8
茨	城	58.3
三	重	57.9
宮	崎	57.6
静	岡	56.4
秋	田	55.6
滋	賀	54.7
富	山	54.5
沖	縄	53.9
青	森	53.3
山	形	52.4
石	川	52.1
島	根	51.8
福	井	46.8

上の表をグラフで示してみます。(分かりやすいように 65 人の所に補助線を引いています。)



歯科大学・歯学部のある都道府県は、歯科医師も多い傾向がありますが、歯科大学・歯学部には付属して病院があるために、歯科医師数が多いことも考えられます。

そこで、今度は各都道府県の人口 10 万人対の歯科診療所数をみていきます。

これは、平成 17(2005)年 10 月 1 日現在のデータです。

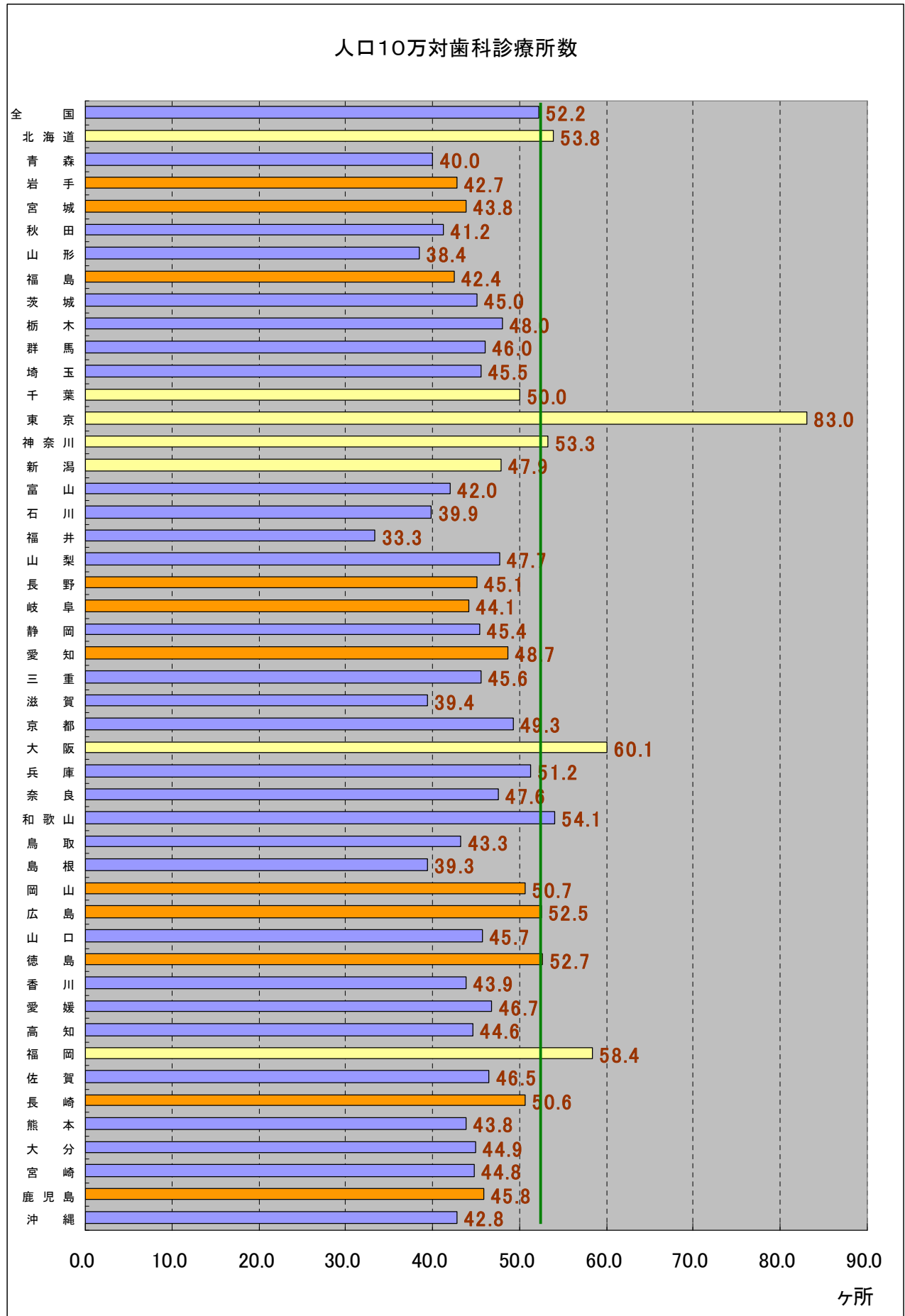
		ヶ所
東	京	83.0
大	阪	60.1
福	岡	58.4
和	歌山	54.1
北	海道	53.8
神	奈川	53.3
徳	島	52.7
広	島	52.5
兵	庫	51.2
岡	山	50.7
長	崎	50.6
千	葉	50.0
京	都	49.3
愛	知	48.7
栃	木	48.0
新	潟	47.9
山	梨	47.7
奈	良	47.6
愛	媛	46.7
佐	賀	46.5
群	馬	46.0
鹿	児島	45.8
山	口	45.7
三	重	45.6
埼	玉	45.5
静	岡	45.4
長	野	45.1
茨	城	45.0
大	分	44.9
宮	崎	44.8
高	知	44.6
岐	阜	44.1
香	川	43.9
宮	城	43.8
熊	本	43.8
鳥	取	43.3
沖	縄	42.8
岩	手	42.7
福	島	42.4
富	山	42.0
秋	田	41.2
青	森	40.0
石	川	39.9
滋	賀	39.4
島	根	39.3
山	形	38.4
福	井	33.3

歯科大学・歯学部が複数存在する都道府県は、やはり上位にありますが、全体としては、歯科大学・歯学部が存在すると、歯科診療所が多くなるという傾向は、歯科医師数の場合と比較すると、幾分かは緩和されるようです。

鹿児島県、長野県、岐阜県、宮城県、岩手県、福島県においては、歯科大学・歯学部の存在が、地元の歯科診療所数にはあまり影響を与えていないとも考えられます。

これらの歯科大学・歯学部は、広域から学生を集めて、卒業後は大学のある土地には開業せず、それぞれの出身地に帰って開業しているのでしょうか？

グラフにしてみます。



歯科大学・歯学部が、特に一つしかない都道府県では、歯科大学・歯学部が存在するから、歯科診療所が多いとは必ずしもいえないようです。

上に示したグラフ二つを画像処理して、重ね合わせてみます。

薄く表示したものが、人口 10 万人対の歯科医師数です。

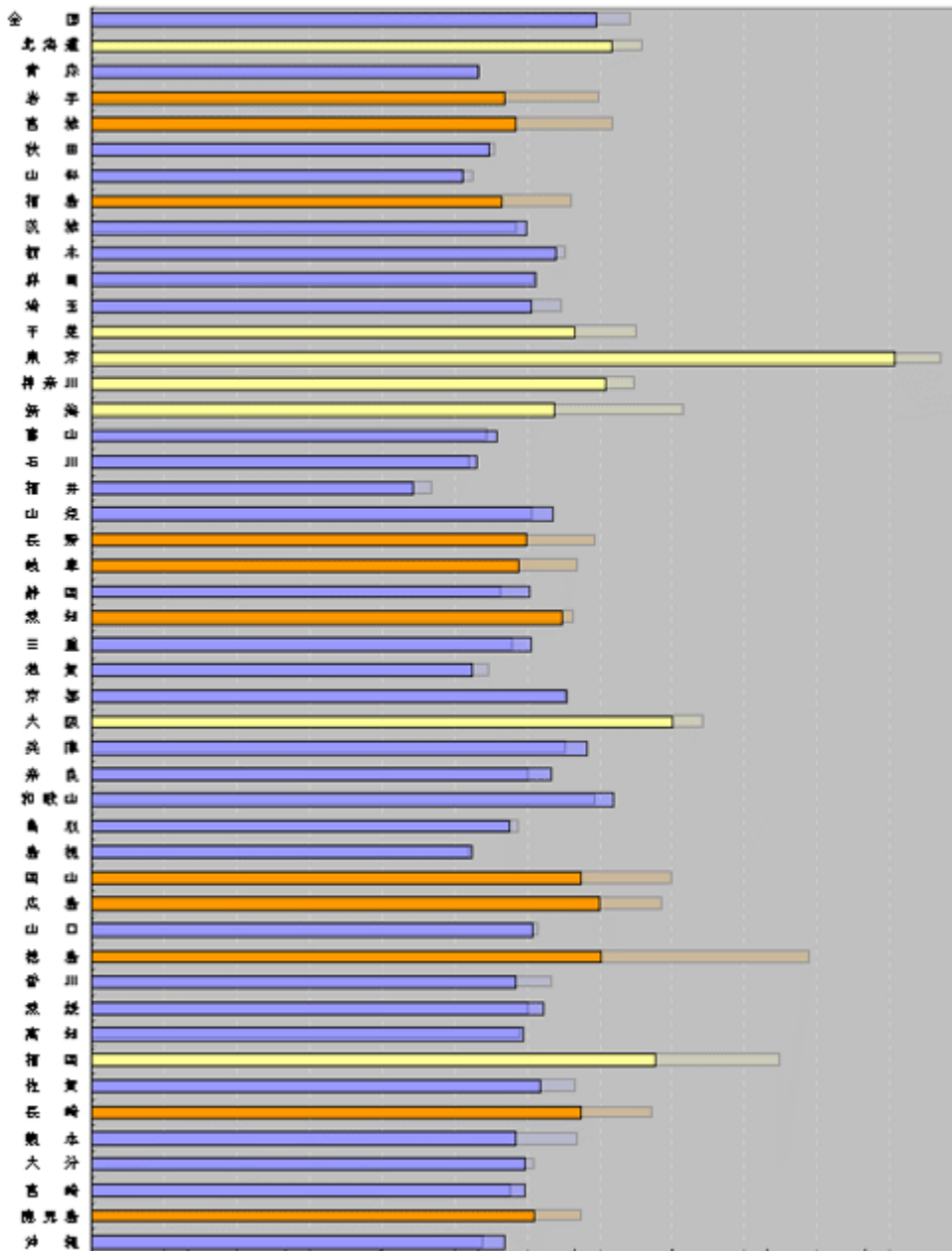
二つの棒に大きな差がある都道府県とそうでない都道府県があります。

歯科大学・歯学部の無い県は、グラフの棒の差が小さくなっています。

差の大きいところは、岩手県、宮城県、福島県、千葉県、新潟県、岡山県、広島県、徳島県、福岡県、長崎県などとなっています。

差の大きな都道府県は、歯科大学・歯学部附属病院が存在するために、人口 10 万人対の歯科医師数は多くなっているが、歯科診療所の数には、歯科医師数の多さほどは影響を与えていないと言えるのではないのでしょうか。

人口10万人対歯科医師数、医療施設の従事者  
人口10万対歯科診療所数



【関連コンテンツ】

◆ 歯科医師数基本データ

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%B0%E5%BB%D5%BF%F4%B4%F0%CB%DC%A5%C7%A1%BC%A5%BF>

◆ 人口 10 万人対の歯科診療所数

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BF%CD%B8%FD10%CB%FC%BF%CD%C2%D0%A4%CE%BB%F5%B2%CA%BF%C7%CE%C5%BD%EA%BF%F4>

◆ 歯科診療所数（都道府県内での偏在）

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%BF%C7%CE%C5%BD%EA%BF%F4%A1%CA%C5%D4%C6%BB%C9%DC%B8%A9%C6%E2%A4%C7%A4%CE%CA%D0%BA%DF%A1%CB>

## 【歯科医師数・歯科診療所数と、一人当たりの歯科医療費の関連性】

次に、歯科医師数や歯科診療所の数と、一人当たりの歯科医療費には関連性があるのかをみていきます。

資料が手に入る、

厚生労働省の患者調査（1999年）

国保事業年報（2000年度）

医師・歯科医師・薬剤師調査（1998年）

医療施設（静態・動態）調査・病院報告の概況（2000年）

を利用してみていきます。

人口10万人対の歯科医師数と国保一人当たり歯科医療費の関連性、及び、人口10万人対の歯科診療所数と国保一人当たり歯科医療費の関連性をグラフで示します。

（次ページから）

グラフをご覧になれば分かるように、人口10万人対の歯科医師数、歯科診療所数と一人当たり歯科医療費には関連が見られます。

概して、歯科医師数、歯科診療所の多い都道府県のほうが、一人当たりの歯科医療費も多くなっています。

また、二つのグラフを比べると、歯科診療所数との関連の場合の方が、歯科医師数との関連の場合よりもばらつきが少ないのが分かります。

グラフにおいて、オレンジ色は歯科大学・歯学部が存在する都道府県、黄色は複数の歯科大学・歯学部が存在する都道府県をあらわしています。

歯科大学・歯学部の存在が、歯科医師数、歯科診療所数、一人当たりの歯科医療費に大きな影響を与えている都道府県と、そうでない都道府県があるといえるのでしょうか。

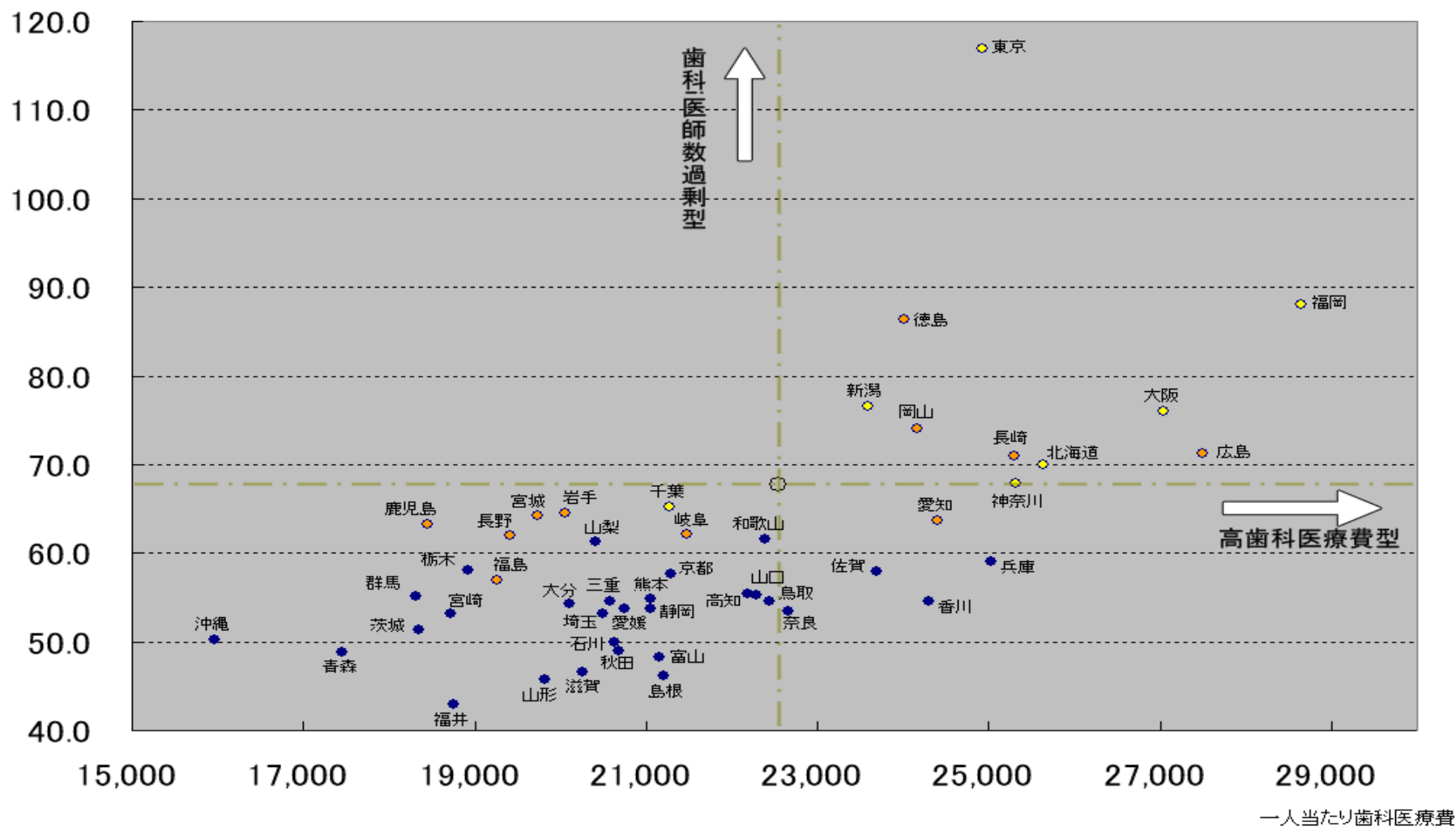
ただ、東京都は全国的な傾向とは大きく外れたところにあるようです。

関連コンテンツ

◆ 歯科医師誘発需要

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%BB%F5%B2%CA%B0%E5%BB%D5%CD%B6%C8%AF%BC%FB%CD%D7>

10万人対歯科医師数





10万人対歯科診療所数

資料 厚生労働省の患者調査(1999年)  
国保事業年報(2000年度)  
医療施設(静態・動態)調査・病院報告の概況(2000年)

